

呉工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	現代社会（木原）	
科目基礎情報							
科目番号	0070			科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『現代社会』東京書籍						
担当教員	木原 滋哉						
到達目標							
1. 環境問題や生命倫理など、現代社会に特有の問題の本質を理解する 2. 青年期の心理の特徴を理解する 3. 宗教や哲学における人間観を理解し、これまでどのような生き方が望ましいとされてきたのかを考察する。 4. 民主主義の本質を理解し、現代の日本の政治制度の構造を把握する。 5. 人権や法の支配など、法律の基礎概念を理解する。 6. 資本主義経済の特徴を理解し、労働者としての権利を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	環境問題や生命倫理など、現代社会に特有の問題の本質を詳細に理解でき、青年期の心理の特徴を詳細に理解できる			環境問題や生命倫理など、現代社会に特有の問題の本質を理解でき、青年期の心理の特徴を理解できる		環境問題や生命倫理など、現代社会に特有の問題の本質を理解できず、青年期の心理の特徴を理解できない	
評価項目2	民主主義の本質を理解し、現代の日本の政治制度の構造を把握することが適切にできる			民主主義の本質を理解し、現代の日本の政治制度の構造を把握することができる		民主主義の本質を理解し、現代の日本の政治制度の構造を把握することができない	
評価項目3	資本主義経済の特徴を詳細に理解でき、また、労働者としての権利を詳細に理解できる			資本主義経済の特徴を理解でき、労働者としての権利を理解できる		資本主義経済の特徴を理解できず、また、労働者としての権利を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	現代の我々をとりまく様々な社会的問題を理解し、その解決策について考察することで、批判的思考力の育成をめざす。						
授業の進め方・方法	講義を中心とするが、ニュースや新聞などを用いた時事問題の分析と討論もおこなう						
注意点	高専で学んだ知識を活かす社会人となるためには、高度な専門知識だけではなく、現代社会にどのような問題が生じているのかを幅広く知ることも必要不可欠である。自分が学んだ知識や技術を、今後の社会でどのように活用していくべきなのかを自発的に考えてもらいたい。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	私たちの生きる社会① 地球環境問題、資源・エネルギー問題			地球環境や資源・エネルギー問題について理解する	
		2週	私たちの生きる社会② 科学技術の発展と生命、情報化と生活			科学技術の発展の影響について理解する	
		3週	現代社会と青年の生き方			現代社会における政権木の特質について理解する	
		4週	よりよく生きることを求めて			主要な哲学や宗教について理解する	
		5週	民主政治とは			民主政治の基本的な考え方を理解する	
		6週	日本国憲法の基本原理			憲法の基本原理について理解する	
		7週	中間試験				
		8週	平和主義と安全保障			平和主義の理念と安全保障の現実について理解する	
	2ndQ	9週	日本の政治機構① 国会と内閣			国会と内閣の仕組みについて理解する	
		10週	日本の政治機構② 裁判と地方自治			裁判所と地方自治について理解する	
		11週	現代政治の特質と課題① 選挙のしくみと課題			選挙の仕組みについて理解する	
		12週	現代政治の特質と課題②			政党や世論について理解する	
		13週	現代社会と法① 法のはたらき			家族法や私法の原則について理解する	
		14週	現代社会と法② 社会生活と法、司法と人権			刑事裁判の基本について理解する	
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
後期	3rdQ	1週	経済のしくみ① 経済社会の変容、市場経済のしくみ			資本主義経済の特質について理解する	
		2週	経済のしくみ② 国民所得、財政政策と金融政策			国民所得、財政政策、金融政策について理解する	
		3週	変化する日本経済① 戦後復興と経済成長			高度経済成長の原因と帰結について理解する	
		4週	変化する日本経済② バブル後の日本経済、中小企業と農業			バブル経済後の日本経済の課題について理解する	
		5週	豊かな生活の実現① 自律した消費者と労働者の権利			消費者や労働者の権利について理解する	

		6週	豊かな生活の実現② 社会保障の役割、環境保全	社会保障制度のしくみ、循環型社会について理解する
		7週	国際政治のしくみ① 国際社会の特質、国際紛争	国家システムの成立、国際紛争の原因について理解する
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	国際政治のしくみ② 国際連合と安全保障	国際連合の基本的しくみ、その安全保障の仕組みについて理解する
		10週	国際政治のしくみ③ 冷戦とその後、軍縮の取り組み	冷戦とその後の国際社会、軍縮のしくみについて理解する
		11週	国際経済のしくみ① 貿易と国際分業	自由貿易と保護貿易、国際収支などについて理解する
		12週	国際経済のしくみ② グローバル化する経済	国際経済の変容について理解する
		13週	国際社会の現状と課題① 地域統合の進展、変容する世界経済	E Uなど地域統合の動向について理解する
		14週	国際社会の現状と課題② 地域紛争と難民問題	地域紛争や難民問題などについて理解する
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0